

第67期（2012年10月期）日本語研修コース

鹿 島 央

1. 研修生

A. 大使館推薦（研究留学生，教員研修生）

文部科学省より配置された大使館推薦の国費留学生は、10ヶ国18名（韓国7名，ミャンマー3名，イエメン，ケニア，ギリシャ，ニュージーランド，ブラジル，マレーシア，モンゴル，ラオス各1名）で，うち7名は日韓理工系学部予備教育生である。残り11名のうち，8名が教員研修生で，残りの3名が研究留学生であった。進学先は名古屋大学10名，愛知教育大学7名，滋賀大学1名であった。今回の研修生の11名（日韓理工系学部生を除く）の内，2名は中級以上の学習者であったため，全学日本語講座（IJ211,SJ301）を受講した。

B. 学内公募（国費留学生）

今期も法学研究科から日本国際協力センター（JICE）の無償支援留学生3名，国費英語コース留学生2名，合計5名を受け入れた。今期も事前にオリエンテーションを行い，日本語研修コースか全学日本語コースか，学生自身に選択してもらった。

以上のように，第67期日本語研修コースは国費大使館推薦留学生9名，学内推薦留学生5名の合計14名であった。

2. クラス編成

授業は，2クラス編成とし，専任教員2名，非常勤講師7名の計9名が担当した。

3. 時間割と日程

時間割は66期と同様である。

コースの日程は以下の通りである。

10月9日（火）開講式，10月10日（水）授業開始，冬季休業12月24日（月）～1月10日（木），1月11日（金）

授業再開。1月14日（月）祝日であったが授業は行った。2月8日（金）授業終了。3月1日（金）修了式。2月19日（火）には例年のように愛知教育大学での交流会に留学生と参加した。春季休業中の集中日本語講座については，国際言語文化研究科の主催する日本語実習クラス（2月21日から10日間）があり，研修コースからも参加した。

4. カリキュラム

今期の授業内容は，教科書を用いたカリキュラムは66期と同じであったが，例年最終週に行っていた「専門について発表する」というプログラム，さらに専門読解の授業も行わず，教科書に基づく授業内容とした。以下，修了アンケートの結果とともに授業内容を報告する。

(a) 教科書を中心とする授業（1～14週）

教科書の内容については，アンケート回答者全員がとてもよいという評価であった。

・ Drill

アンケートには，特定の教師の教え方をよしとする意見があった。FD研修もかねた授業見学も検討していきたい。

・ Dialogue

修了アンケートでは，文法の活性化につながった，練習時間が短いなどのコメントがあった。

・ Discourse Practice & Activity

十分に練習をしてからロールプレイを行いたい，とても役に立つとのコメントがあった。

・ Aural Comprehension

むずかしいがチャレンジングである，語彙を得たというコメントがあった。

・ Reading Comprehension

日本の文化を知る上で役に立った，トピックがよいというコメントあり。

- ・ WebCMJ

授業内での扱いは先期同様10課までとし、11課からは自習とした。

自習用教材としていい方法であるとのコメント。

- ・ 漢字および漢字セミナー

300字の導入と練習。先期と同じく導入速度の問題が指摘されている。『KANJI&KANJI』を貸し出しているが、Web ベースの機器の方が便利であるというコメントが多かった。

- ・ Dictation

先期と同じように5課まではこれまでの方法とし、6課からは文レベルとした。

(b) その他の活動

- ・ 話す練習

話すテーマは前期と同じで(「楽しかったこと」「趣味について」「国の観光地」「国との違いについて」)それぞれについてワープロで原稿を書き、話す活動として口頭発表を行った。書く力の養成になった、話す練習によいというコメントがあり、ほぼ全員の評価が高かった。

日本人ゲスト(各回4名)にインタビューする活動も例年通り2度行った。この様な機会をもっと多くしてほしい、もっと時間を長くしてほしい等の要望が多かった。

- ・ Pronunciation Practice

特殊拍の長さの知覚とアクセントの下降の位置の知覚ができるように、AD図を用いて練習を行った。時間が少ないこと、アクセントに気がつくことの重要性に言及したコメントがあった。

- ・ 文化の紹介

日本の遊び(お正月)と年中行事について、ビデオをみながら紹介した。

今回は、和菓子についても紹介した。

5. アンケート結果

14名全員の回答を得た。

(1) コースのプログラムの満足度

4段階で評価してもらった。「3:とても満足」から「0:まったく満足しない」で、14名中12名が「3」の評価、2名が「2」の評価であった。

(2) 自身の学習成果への満足度

4段階の評価で、「3:とても満足」から「0:まったく満足しない」。14名中8名が「3」、3名が「2」、2名が「1」、1名が「0」の評価であった。「0」評価の学生は、もっとベストを尽くすべきであったとのコメントであった。以上の結果から、自身の学習成果にはほぼ満足している傾向が窺える。このうち、11名は、日本語が、コース開始時に期待していたよりできるようになったか期待していたのと同じレベルであったと回答している。

(3) 今期のアンケートでは、この日本語研修コースを次に来る学生にも勧めるかどうか、自由記述での回答を求めた。11名の学生が勧めるという回答であった。理由は、授業内容がいいこと、速く効率的に学べるからというものであった。

6. まとめと問題点

今期は、研究留学生が少なく、教員研修留学生が多かったことが特徴である。教員研修生は一般的に年齢的に高く、習得が難しくなるケースが多々見られたが、今回は大変まじめに、ほとんどが問題なく課題をこなした。後期は、法学研究科の国費特別コースの留学生を受け入れているが、今回は、留学生各人にコースを選択してもらったことが1年前とは異なり、学生個人の学習に対する姿勢、動機の強さなどに違いが感じられた。指導教員のご支援の賜物であろうと思われる。